

[様式11]

(対象事業：芸術拠点形成事業)

事業名：美術館における古美術鑑賞の実践

事業者名：出光美術館

連携事業館名：

東京都立調布北高等学校

東京都高等学校書道教育研究会

埼玉県高等学校書道教育研究会

千葉県高等学校教育研究会書道部会

住所：東京都千代田区丸の内3-1-1

TEL：03-3213-9404

FAX：03-3213-8473

HPアドレス：www.idemitsu.co.jp/museum/

外観写真

①施設概要

東洋の古美術を中心として、年6回の企画展示を行っている。書画工芸品、約1万件を収蔵するほか、国内におけるルオーコレクションでは最大。

②事業の意図目的

美術館における古美術鑑賞の実践を推進すること。特に高等学校芸術科教育・書道において導入された鑑賞教育の実践に関し、美術館と学校教育との連携を念頭に、現場で参考とされる鑑賞教育プログラム、およびそのテキストの開発を行い、書跡作品の鑑賞教育を推進するもの。

③事業概要

(1) 事業の概要

①研究会の開催

東京都、千葉県、埼玉県の各高校書道教育研究会ほかより、本事業への理解者を募って研究会を発足し、各地区での鑑賞教育の現状を調査・把握するとともに、発展的な意見交換会を実施開催した。また同研究会で首都圏の美術館・博物館において書跡作品の展示されている展示会場を訪問し、美術館見学と鑑賞実践の連関・連携について具体像を模索、検討した。

②鑑賞教育プログラムおよびテキストの開発

上記①の成果をもとに、より現場の実情に相応しいモデルプログラムと鑑賞テキストの検討・開発を行った。

③鑑賞教育プログラムおよびテキストの試験実践

出来上がったプログラムおよびそれに準じたテキスト、ワークシートを各会員が試験実践を行い、都度、振り返りを行った。

また本年度、東京都下50校にて設置された「日本の伝統文化推進校」の内、モデル校の一つである都立調布北高等学校において、芸術教科書道担当教員を窓口、同研究会で開発作成できた上記②の教材を用い、出前授業による講座の開催、およびワークシートを用いた鑑賞授業を試験実施した。

なお千葉県立市川南高等学校では、請負館学芸員と担当教員の共同企画開発による鑑賞授業の公開実践を期間中に行い、その成果と課題を研究会に提出し話し合いの糧とした。

④事業報告会および検討会の実施

上記①、②、③の事業実施内容をまとめ、報告会を開催した。

その後、報告会での討議を参考にしながら、鑑賞プログラム、テキスト、ワークシート等の見直しを再度行い、より現場の実情に相応しいモデルプログラムと鑑賞テキストの検討を行った。その下で同研究会員が所属する高等学校現場にて、鑑賞授業を試行し、そののち各現場の成果を再度もちよって、総合検討会を実施した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 事業報告書（研究会記録・実践事例・ワークシート）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 30 人

内 訳 研究会 27人 講師（アドバイザー） 3人

(1) 事業の実施状況について

研究会6回と活動連絡会を8回実施した。

ほか各会員が自主的に、美術館・博物館のワークショップなどに参加した。参加者は積極的で、おおむね計画通りに進んだが、報告書記載の通り、参加会員間には意識的な温度差があったことは否めない。

美術館と学校現場との仕事の進め方、考え方は大いに異なるところから、当初は議論もスムーズに進まなかったものの、本事業でテーマとした「美術館における鑑賞」を共通基盤にすることで双方が了解し、鑑賞者の立場をあらゆる角度から検討しながら、鑑賞に関する具体像を模索した。

しかし鑑賞プログラムを提供するにあたっては、全国的な地域格差はもちろんのこと、参加者の基盤である東京・千葉・埼玉の都県下においても、美術館へ出かけることの難しい地域はある。こうした観点から、鑑賞テキストとしての教科書の有効性を十分に議論するとともに、教科書を十分に活用でき、そこから将来的な理想像が結べるような具体策を吟味、検討した。

短い期間ながら、有意義な議論の積み重ねを通して、これまであまり省みられることのなかった美術館における作品「鑑賞」について、まず指導的立場である美術館学芸員と学校現場担当者との連携が実現したことは、教育学の現場においても大きな成果と好評を得た。

今後は教育学における「鑑賞」分野の研究が進むことを願い、この事業内容がより深く検討されることを願いたい。

(2) 地域との連携について

出光美術館の所在する東京・有楽町は、地の利もよく、東京、千葉、埼玉の先生方が公平な立場で参加できるところは好評であった。しかも付近の銀座は、芸術活動を営む者にとっては個展、グループ展の開催されていることが多く、団体は年間を通して展覧会活動をおこなっていることもあるため、研究会参加への意欲にも連なったようだ。そうした意味でも拠点活動には適した場所だったと言えるかも知れない。

今後は今回参加の呼びかけを行わなかった神奈川、茨城、栃木、群馬、山梨等、近隣地域へも広げて、まずは有志参加による活動を広げてゆきたい。

(3) 成果物について

報告書 112頁 1色印刷 5000部を制作した。

美術館の教育普及担当者宛に配布したほか、

大学・高校の芸術科（書道）宛に約4000部を発送配布した。

これまで未着手の分野であり、まずは高等学校現場の書道あるいは美術担当の先生方に確実に認知されることを狙った。

(4) 参加者の反応

これまで指導要領にも取り上げられながら、未着手であった「鑑賞」の進め方において、参加各人が具体的な手法を議論し、互いに学びあい、自分でプログラムするという新しい手法をつくることができた。すでに各現場では、各々の先生方や学芸員が意欲的に取り組む姿勢を見せている。今後は定期的に有志が集まって振り返りを行うよう、美術館側からも支援をしてゆきたい。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

鑑賞教育にとっては古美術業界初の試みで、芸術書道科、書写書道科における教育現場での模範的事例となった。参加者も、新たな気持ちで意欲的に取り組み、今後現場での実践ほか、美術館利用における自主的な活動への基盤づくりとなった。国内、書道教育界にも認知され、今後は幅広い社会教育活動への展開が期待される。

(6) 新聞記事等

『書道美術新聞』にて取り上げられた。